

彼らはこうして、かけがえのない友を得た。

昔、インドに二つの国がありました。

片方の国は温和な王が治めとても平和な国でしたが、

もう片方の国に攻められてあつと間に滅んでしまいました。

滅びた国の王子は一人満月に誓います。

「父王を殺すべてを奪った、あの隣の国の王に復讐を。」

かたや、隣の国の王は「この元王子をやつぎになて探して見ました。」

「あいつは私を恨んでいる、必ず私を狙うたつう。あいつを殺さないこと……」



「仏典童話」より、
一人で演じる音楽劇

月光の二人

復讐の王子と仇の王の「許し」の物語

構成／出演 杜川リントロウ
音楽 稲垣一樹
演奏 つつみあつき(CI)

この「月光の二人」は菊池寛の名作

「恩讐の彼方に」に代表される「復讐・和解譚の原型的作品」

優しかった父王を殺され復讐に燃える王子と、

多くを奪ってきたため何も信じることができない王。

そんな二人の「赦し」の物語。

どうして「寛」ただけで「幸」です。

これは、二人の人間が「朋」になるまでの物語。

大切な事は、大昔から変わらない。

生演奏の音楽劇で綴る

仏典童話

大昔のインドの物語

仏典童話とはインドの昔話を下敷きにした「お釈迦様の前世譚」。

あまり耳慣れない方が多いかと思いますが、

実はこの仏典童話は現代に伝わる様々な物語の原型になっています。

イソップ物語やアラビアン・ナイト、さらには日本の今昔物語や宇治拾遺物語、説話集など

様々な物語に大きな影響を与えてきました。

その中から、「月光の二人」をはじめ「猿の橋」「老人を捨てる国」「歌ゆえに命を失う事」

など数本を選び、生演奏の音楽劇で上演します。

「えっ、この話はこんな昔からあるの？」

それはつまり、人間の大切な部分は昔から変わっていないあかです。

大切な事は、大昔から変わらない。是非に鑑賞いただければ幸いです。

大曾根綜合駅より徒歩3分に事務所あり **芝居屋杜川リントロウ**

〒462-0810 愛知県名古屋市北区山田1-1-43 杜川リントロウ公演事務所「PICO2」

TEL 090-1291-1603 / 070-5435-7104 E-mail t2197359@gmail.com URL <https://m-rintaro.jimdofree.com/>

猿の橋

ある国に、とてもケチな王様がいました。
好きなものは自分だけでひとりじめしてしまう王様でした。
「わしの果樹園の果物を盗んだ者は絶対に許さんからな」
その頃、山の猿たちは食べものが無くて困っていました。
そこで猿の王様は考えました。
「そなた、お城の果樹園には果物が沢山実ってるぞ」
こうして猿たちは果樹園へと向かっていったのです…
作曲・小塚憲二

老人を捨てる国

そのむかし、インドのある小さな国はとても貧しく
「60歳以上になった親は捨てなければならぬ」
というきまりがありました。
しかし、ある男は父親を捨てることができずに
家に連れ帰り匿っていました。
それからしばらくして、その国の王様の元へ
隣の大きな国から手紙が届きました。
「見た目は全く同じ二頭の馬のどちらが親でどちらが子供か
それを答えよ。答えられなければこの国は攻め滅ぼす。」
国中で考えましたが、答えられる者は誰一人おられません。
その時、男の父親が口をひらきました…
作曲・小塚憲二

歌ゆえに命を失う事 (沙石集より)

時は平安時代、村上天皇の時代。
天皇主催による日本の歴史に残る三大歌合のひとつ、
「天徳内裏歌合」の影で起こった
王生忠見と平兼盛のドラマを熱く昭和風に演じます。
こちらの作品は仏典童話ではありませんが
仏典童話から大きな影響を受けた鎌倉時代の説話集、
「沙石集」(無住著)に収録されたものとなります。
作曲・田中由美